

農業

農業会議は3部会で協議へ

問い合わせ 農林課 農林係 (☎92-8271)

を踏まえ、施策や具体的な取り組みをまとめます。

その内容を全体会議で協議し、同ビジョンを平成

22年8月をめどにまとめる予定です。

米の生産調整、水田の維持にメリット

稲WCSをご存じですか？

稲WCSとは稲発酵粗飼料のことで、稲わらを利用して作る牛の飼料です。市内では、三輪や原山田の営農組合などが取り組んでいます。

飼料づくりは、アケボ

ノヤヒノヒカリなどの品種を普通に栽培することできます。穂が出たところに刈り取り、乳酸菌を混ぜた稲わらを直径約80cm高さ約80cmの円柱状に圧縮して固め、ビニールでラッピング。発酵させて飼料にします。10a当たり12個程度取れます。

転作作物として認められ、米の生産調整の拡大に対応しやすいことや水田の維持につながることで稲WCSのメリットです。稲作と畜産の連携にもなります。

三輪営農組合では今年、強い農業づくり交付金を活用して、専用の作業機械を購入。同組合の3分の1にあたる約12haの田で稲WCS作りを始めました。渡辺隆志組合長は、「大豆や麦の連作障害の解消と、農業の省力化にもなる」と話します。



第2回総社新農業会議の様子。基本理念や部会の設置に向け、活発な議論が行われた

今年5月、総社市の農業の将来ビジョンを考えたように発足した「総社新農業会議」(会長・岡山大学の佐藤豊信副学長。委員27人が出席し2回目の会議が10月13日、総合福祉センターで開かれ、部会の設置が決まりました。市の農業政策の目指す方向性を示す「総社新農業会議ビジョン(仮称)」策定に向けて設置された部会は、「生産者」と「消費者」「地域活性化」の3つ。生産者や消費者、流通・加工事業者、農業関係団体、行政などが連携・連動で、農業を元気にしようとする、持続可能な農業づくり、食と農の関係づくり、活力ある地域づくりが各部会の大きなテーマとなります。今後、部会ごとに課題



①刈り取りながら、わらに乳酸菌を混ぜる ②きざんだわらを圧縮して、円柱の形にする ③ビニールでラッピングする ④稲発酵粗飼料の完成

福祉

『よろしくね』を使って

サポートブック『よろしくね』は、障がいのある子どもと家庭と支援者をつなぐファイル

問い合わせ 相談支援センター「ゆうゆう」(☎92-8578)

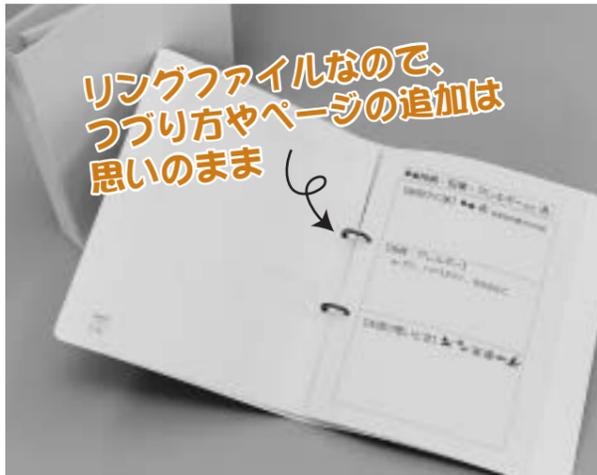
障がいのある子どもの家族が学校の担任や支援者などに知っておいてほしい子どもの情報を書き込むファイル「総社版のサポートブック『よろしくね』」を作りました。

サポートブックは家族が書き込み、管理するファイル。連絡先や生活面の特性など26項目にわたる様式をとっています。入学や進級、福祉サービスを利用するときなど

にサポートブックを利用すれば、短時間に複数の関係者が同じ情報を共有できます。また、初めての場所や初対面の人と、子どもが過ごすときに大きな助けになるとも考えています。

必要な人には、総合福祉センター内の相談支援センター「ゆうゆう」でお渡ししています。

サポートブックはリングファイルのため、利用者の使い勝手が良いようにページの入れ替えや追加もできます。最初に書き込んだままでなく、日々の記録を書き続けることで、子どもの発達や成長とともにサポートブックも発展していきます。



リングファイルなので、つづり方やページの追加は思いのまま

サポートブック『よろしくね』。氏名、生年月日、連絡先といった基本的なことや、「食事・おやつ」をはじめ、「トイレ・洗面・はみがき」、「着がえ・お風呂」、「就寝・寝ざめ」、「コミュニケーション」、「遊び」、「こだわり・パニック」、「外出」、「保護者の願い・将来的には」といった生活面のサポートなどの項目について記入できるようになっている

総社市生活交流グループ協議会が、市内で生産された農産物を使用して作った加工品の詰め合わせ。懐かしいふるさとの味をお歳暮や家庭でどうぞ。

吉備路 味と香りの玉手箱

¥3,900
送料込み
[限定400個]

申込期限 11月20日(金)
[12月11日(金)発送]

青大豆みそ、豆餅、梅干し、白桃ゼリー、鬼のめんくり玉(米粉菓子)、もち麦はったい粉、おちちの里(米菓子)、豪漢漬(ふくしん漬)、きび餅、もちむぎひしお、なすの辛子漬の11品

申込先・問い合わせ 総社市生活交流グループ協議会事務局 本行さん (☎95-9015)
※農林課農林係 (☎92-8271) やJA岡山西吉備路アグリセンター (☎93-3754) などにも申込書あり